

C | O | N | T | E | N | T | S |

- 【1】 職場を考える(46) 【リキミのある考え】
- 【2】 生き生き施設づくり(38) 【意思決定】
- 【3】 信頼のある職場(46) 【虫の聞こえる里の秋】
- 【4】 少年硬式野球チームのコーチと目標管理(56) 【甘え】
- 【5】 ネキリ虫

平素はお世話になりありがとうございます。  
当センターで2カ月に1回のペースで発行するメールマガジンをお送りします。すごいことが書いてあるわけでもなく、無事をお知らせする程度のメールマガジンです。  
気楽にご笑覧いただき、今後ともご厚誼をいただければ幸いです。

中嶋哲夫

【1】 職場を考える(46)

【 リキミのある考え 】

無意識の思考習慣についてもう一つ。今回は「頭のリキミ」についてです。前回の話とも関連します。スポーツの世界では、リラックスが大事だと言われます。ものを考える時も同じで、リラックスしなければ集中力や創造性は生まれません。

should主義の人には、リキミを感じる事が多くあります。上体に力が入り、呼吸が短く、早口というのがリキミを感じさせるのでしょう。その場合、発言の勢いほどには人に影響を与えない考えとなります。リキミを感じさせる人は、「危機感を持つ」「～～できていないことが問題だ」といった、現状否定型の発言が多いように感じます。

should主義の人でもリキミを感じない人もいます。腰に力が入り、呼吸が長く、落ち着いて話をする人です。発言は「～～をやるべきだ」「～～を目指そう」といった現状肯定型の発言が多く、will主義の人に近い発言が多いように感じます。

about主義の人には、リキミを感じることは、あまりありません。ただし、プチ・リキミを感じることはあります。プチ・リキミとは、上体に力が入っているが、呼吸は落ち着いているというものです。

will主義の人には、リキミを感じる人と、感じない人が混在します。現実を見ている場合には、リキミに繋がらず、現実を見ないで意思だけが先行するとリキミに繋がる。そう言えるかもしれません。

hopeさんの人は、腰の力が抜けています。声にも力強さがありません。プチ・リキミを感じる場合と、力が抜けていると感ずる場合があります。

頭にリキミが発生すると、よい考えは浮かびません。頭をリラックスさせることができ初めて、集中力や創造性に繋がります。マインドフルネス瞑想がブームとなる所以でしょうか。

中嶋

---

## 【2】生き生き施設づくり(38)

---

### 【 意思決定 】

意思決定はどの道に行くか決めることで、取りうる選択肢からどれかに決めなければ前へ進めません。

比較検討して優れたものを選ぶわけですが、もとより優劣は相対的なものであって、80対20というような誰が見ても優劣が明らかなケースは実務上希少です。たいていは50対50つまりフィフティフィフティから選ばざるを得ないという悩ましいケースが大半です。そこで意思決定のための様々な情報や技術が求められます。経営者の悩みは深く、参謀役のスタッフの仕事がいくらでも増えることになります。

そこで…神様があなたの前に現れて「君の組織に力を与えよう。2つある。好きなほうを言いなさい」と言ったとします。

- ・正しいことを選ぶ力
- ・選んだことを正しくする力

どっちか。これ自体も意思決定で正解はないのですが、最近訪問して勢いを感じる会社は、後者の力が勝っているように感じます。社会のどこかで毎日予期せぬことが起こり、しかも世界はつながっているこの不確実性の高い現在において、何が正しかったかで勝負がつくのではなく、そのあとに自分たちで選んだことを前に進める力で結果が出るが増えてくるのではないのでしょうか。だとすれば、わが社の前に進む力の源泉はどこにあるのか、はととても大事な問題の立て方のように思います。

パートナー 三宅敬司

---

## 【3】信頼のある職場(46)

---

### 【 虫の聞こえる里の秋 】

里山に近い在郷の田畠に在って、数十戸の民家が散在する集落の中を、軽自動車一台がやっと通ることができるくねくね道を抜けたところにそのグループホームがありました。グループ長さんと歓談していると、開け放った窓から風とともに虫の声が入ってきます。里の秋の原風景のような場所で、古い民家を改装した施設です。

かつてふつうの家族が（たぶん三世代か四世代が同居して）ふつうに暮らしていただろうと思われる家屋を、実用第一に改装したようです。

入居しているのは認知症のお年寄り8名のこじんまりした施設で、スタッフは若手の正職員と、ベテランの女性中心の非常勤職員。特色は何か。それは入居者もスタッフも大半が地元、この集落出身者だということです。入居者の入れ替わりは緩やかで、つまり比較的長命であること。スタッフも入れ替わりが少なく、つまりこの地の生活者として長く地域の世話をしているということ。

幼いころに頭をなでてくれた村落のおじさんおばさんたちの穏やかな最晩年を、成人したかつての少年少女が、面倒を見ている場面を想像します。

サービスを受ける側とサービスを提供する側という関係性以前に、親から子へ子か

ら孫へと続く世代のつながりや、ご近所で近所のお年寄りを世話するという昔あったに違いない村落共同体が残っていて、その関係性基盤の上に、介護保険制度がのっかっているのが感じとれ、秋の爽やかな気象とあいまって気分がいい午後でした。

パートナー・三宅敬司

---

#### 【4】少年硬式野球チームのコーチと目標管理(56)

---

##### 【甘え】

先月の台風上陸で、我がチームのホームグラウンドの外野フェンスおよび球場を囲っているネットが倒れ、壊滅的な打撃・・・。

これから大会が始まる前とあって、試合会場ともなるグラウンドですので修復しなければなりません。

現在のグラウンドのネットやポールを大型機械で立ててくれたのは、一昨年まで我がリーグに所属していた選手の保護者Kさん。Kさんは土木工事業を営んでおり、ほぼ無償でやっていただきました。

今回もお願いできないだろうか？多くの在籍する保護者も私自身も当然のこのように考え「Kさんをお願いできないですかね？」という声でした。ところが、ともに約20年間我がリーグを支えてきた事務局長が「Kさんをお願いするのは避けたい」と一言。

私も多くの保護者も“何で？”と感じました。

事務局長は「Kさんは卒団生の親であり、商売をやっているわけで、無償ありきの依頼は甘えだ！」と・・・確かに無償であれば“甘え”となるので、費用を支払うということではどうだろうか？大型機械（ショベルカー等）をレンタルする術も知らない人が多く、なるべく早く復旧させるにはKさんをお願いして費用を払うのが一番だ！と私も決めつけておりました。ところが、事務局長は「Kさんに依頼するのは簡単だし、お金を払うということも当然ながら伝えるとしても、Kさんはビール一杯でいいよ！と言う人なので、それは避けたい！」と頑なでした。

暫くは平行線の議論をしていたのですが、保護者代表の一人が「では、一旦、保護者の間で協力ができるかどうか？知り合いなどを通じて業者を紹介してもらえないか？を確認してみます。」と・・・。

翌日、リーグの連絡網で、「今週末に復旧工事を行います。土曜日に準備をして日曜日に大型機械を入れて一気にいきますので、保護者の皆様の協力をお願いします。」と！

その連絡網を見て、たった一日で新たな道筋を立てられたことに驚きと喜びが沸き起こりました。そして“きっと、業者を見つけることはできない。”“今まで依頼してきた人をお願いする方が安心だし、楽だ”こんなことを考えていた自分自身の決めつけや前例踏襲する姿勢に気づかされました。

事務局長曰く、「ほらね。新しい道が開拓できたでしょ！甘やかしちゃダメ！」

・・・脱帽。

良かれと思い、これまではこうだった・・・というアドバイス。確かに必要な場面もあるのだと思いますが、時に新しい発想や繋がり、協力関係の構築にマイナスになっていませんか？

目標設定をする段階で、時にはアドバイスしないことも、甘えず、自立した社員づくり、新しい手法の開拓には必要では？

イケメンコーチ

---

#### 【5】ネキリ虫

葉物の野菜づくりは、虫との闘いです。白菜や小松菜を植えると、根本に5mmほどの小さな虫がつきます。葉の根本に入り込んで、そこを食いちぎるので、ある程度大きくなった葉が全滅。すでに、4株植えた小松菜は3株がやられ、3株植えた白菜は1株がやられました。筆者の最大の敵です。このため、時間があるときには、虫退治に取り組みます。虫退治用のピンセットを持ち、眼鏡を掛けて根本の虫を探し出し、引っ張り出して退治する。殺生そのものです。

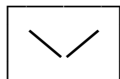
考えてみれば、家庭菜園には無数の生き物が生息しています。多種類の毛虫、アオムシ、カイガラムシ、アブラムシ、ミミズ、多様な幼虫、ミツバチ、蝶々。それらの生き物を退治したり、助けてもらったりしながら、野菜を収穫しているわけです。生命の循環を感じるときです。

中嶋

#### ◆◇MB0(目標管理)実践支援センターの考え方

MB0(目標管理)実践支援センターはMB0(目標管理)を組織内で展開するためのノウハウを蓄積し、人事担当者に提供するためのセンターです。営利事業と非営利事業を組み合わせるこの機能をはたしていくつもりです。

<http://www.mbo-mcp.com/>



編集・発行／MB0(目標管理)実践支援センター  
代表／中嶋哲夫 <http://www.mbo-mcp.com/>  
事務局／(株)MC&P TEL:06-4706-3311

- 最後までお読みいただきましてありがとうございます。  
このメールマガジンは、センターの講師陣が出会った方々に感謝の気持ちを込めて送らせていただいています。  
もし、ご関心のない場合には、ご面倒ですが解除の手続きをお願い申し上げます。
- このメルマガを読んでもらいたいお知り合いを是非ご紹介ください。
- 投稿または配信停止を希望される場合は、  
下記「お問い合わせフォーム」にて、  
「MB0投稿」または「MB0メルマガ配信停止希望」とご記入の上、送信願います。  
<https://secure.mcp.co.jp/contact.html>
- このメールアドレスは配信専用となっております。  
返信いただいても対応はいたしかねますのでご了承ください。  
ご連絡は下記アドレスまでお願いいたします。  
[mbodoor@mbo.mcp.co.jp](mailto:mbodoor@mbo.mcp.co.jp)

※本メールの無断転載・複製を禁じます。